

# 走れメロス コラボ群読劇

世界の補習校をつなぐ群読の輪



# 走れメロス 太宰治



3校、3つの声。  
今、メロスが走り出す。  
ご視聴下さい  
招待リンク・資料のご要望は  
[k.kanaya@chicagohoshuko.com](mailto:k.kanaya@chicagohoshuko.com)まで

1/24 第一部（前半）  
シカゴ(IL | CST) : 12:40  
サクラメント (CA | PST) : 10:40  
ブルーミントン (IN | EST) : 13:40

2/14 第二部（後半）  
シカゴ(IL | CST) : 12:40  
サクラメント (CA | PST) : 10:40  
ブルーミントン (IN | EST) : 13:40

## 3つのねらい

### 1 文学の「体感」化

単なる「理解」から一步踏み込みます。群読特有の感情・間・リズム・重なりを通して、文章の意味を身体化させ、作品世界を深く味わいます。



### 2 聴く力を本気で鍛える

他校の生徒の台詞を聞き逃すと全体が崩れてしまう緊張感の中で、「本気で聴く」姿勢が自然と育まれます。互いの呼吸を感じ合う体験です。



### 3 自己有用感と責任感

自分の声で作品を作り上げます。「一人欠けると成立しない」という状況が、生徒一人ひとりにかけがえのない役割と責任感を与えます。



## 通常授業との違い



### 表現と思考の深化

内容理解のための音読ではなく、「群読劇」という作品創りのため、感情表現や解釈を深く追求します。



### 生徒主体の運営

当日の司会進行や背景画像の作成なども生徒たちが実施。自主性を重んじるプロジェクトです。



### 未知との遭遇と責任感

出会ったことのない生徒と作り上げるワクワク感と、「失敗できない」という健全な緊張感が生まれます。



### 小規模校への機会提供

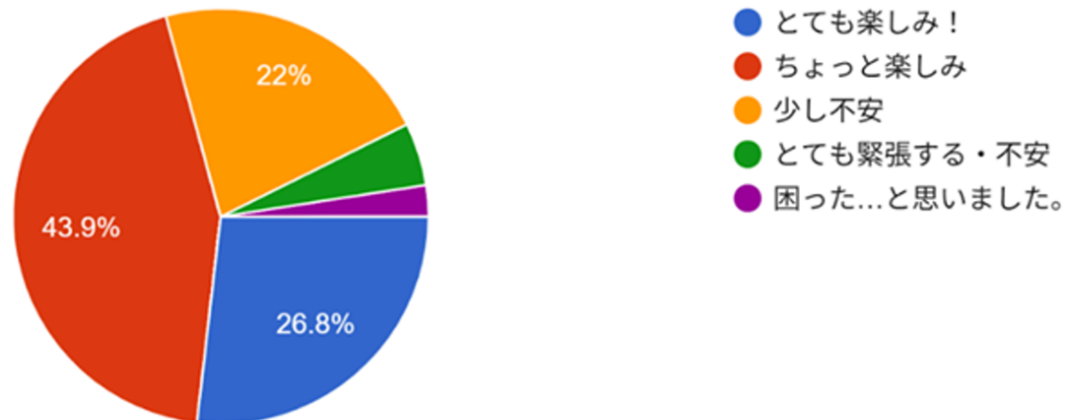
中2生徒が1名のブルーミントン校など、単独では実施不可能な「群読」の機会を創出します。

## 生徒の期待度

**70.7%** が楽しみにしていると回答

「走れメロス」の群読劇を他の補習校と合同でやると聞いて、どう思いましたか。

41 件の回答





# 走れメロス コラボ音読会

本番は2026年1月24日（前半）2月14日（後半）サクラメント補習校(現地時間10時40分～)・ブルーミントン補習校(現地時間13時40分～（2月14日は14時まで））シカゴ補習校(現地時間12時40分～) **リハ無し。1月24日に本番に突入一本文の前半収録。2月14日に後半収録。**

※ 1/24 前半本番  
2/14後半本番

- メモ
- ・背景を場面の絵にする
  - ・名前を「学校名+イニシャル」にする。google meetsにログインする際にかえる。

本番日	場面	読み順	担当班	音読ページ		場面	状況説明	読み担当者
			<b>C</b>		プロローグ	最初の挨拶		C：伊東
1/24	1	1	<b>B-1</b> (メロスはC)	p 204最初～P 205 L 17	状況設定	メロスの人物設定と王の暴虐の様子		地の文：B-MM 村人：MM、C校 メロス①②③④
1/24	2	2	<b>S-1</b>	P 205 L 18～P 208 L 13※王の言葉①②③ P206/L9までBー松本	展開1	メロスと王の約束		王「わしの孤独の心はわからぬ」まで：B-MM
1/24	3	3	<b>C-2</b>	P 208 L 14～P211 L12	展開2	妹の結婚式 「メロスの足は、はたと止まった」まで。		地の文 名、メロス①～⑤
1/24	4	4	<b>S-2</b>	P 211 L 12～P 212 L 10	展開3	「見よ、前方の川を」から S-2最後の行revise⇒ 登り切ってほっとしたとき⇒登り切ってほっとした仕度に変更	試練ー故郷への未練の情	地の文、メロス台詞①
2/14			<b>B</b>			ここから後半ー中継ぎの挨拶(bridging remarks)		B 校：MM
2/14	4	5	<b>B-2 説明</b> C-3山賊メロス	P 212 L 11～P 213 L 1	展開3	メロスに次々と立ちはだかる試練 「P212 L11 突然、～P213L1 峠を下った」	試練ー山賊の出現	説明：B校 メロス：C校 山賊：C校
2/14	4	5	<b>C-3</b>	P 213 L 1～P 215 L 2	展開3	メロスに次々と立ちはだかる試練	試練ー山賊の出現	
2/14	5	6	<b>S-3</b>	P 215 L 3～P 216 L 10	山場	山場の始まり		
2/14	5	7	<b>C-4</b>	P 216 L 11～P 218 L 5	山場	山場	試練-フィロストラトスの言葉	
2/14	5	8	<b>S-4</b>	P 218 L 6～P 219 L 6	山場	セリヌンティウスとの再会 王の改心		
2/14	5	9	<b>SC</b>	P 219 L 7		「万歳、王様万歳」は S+C合同		「万歳、王様万歳」はS+C合同で
2/14	6	10	<b>C-5</b>	P 219 L 8～最後	結末	終わり 少女+マント	地の言葉1名、セリヌンティウス1名	
			<b>S</b>		エピローグ	最後の挨拶		
C-28名 Cと書かれた所のみ担当					班の中でメロス役がわかるように古代ギリシャ衣裳着用（シーツ等で巻く）頭にオリーブの輪			
S-12名 B校ー1名					班の中でメロス役がわかるように古代ギリシャ衣裳着用（シーツ等で巻く）頭にオリーブの輪			



も気味がいい。人は、これだから信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代わりの男を胸に抱してやるのだ。世の中の、正直者とかいうやつばらにうんと見せつけてやりた

いものさ。

「願いを聞いた。その身代わりを呼ぶがよい。三日目には日没までに帰ってこい。遅れたら、その身代わりを、きつと殺すぞ。ちよつと遅れて来るがいい。おまえの罪は、永遠に許してやろうぞ。」

♪-1

「なに、何をおっしゃる。」

「はは、命が大事だったら、遅れて来い。おまえの心は、わかってるぞ。」

メロスはくやしう、じだんだん踏んだ。ものも言いたくなくなった。

竹馬の底、セリヌンティウスは、深夜、王城に召された。暴君ディオニスの面前で、よ

き友とよき友は、二年ぶりで相会うた。メロスは、友に一切の事情を語った。セリヌン

ティウスは無言でうなずき、メロスをひどく抱き締めた。友と友の間は、それによって

セリヌンティウスは打たれた。メロスはすぐに出発した。初夏、満天の星である。

メロスはその夜、一睡もせず十里の道を急ぎに急いで、村へ到着したのは明るく日の午

前、日は既に高く昇って、村人たちは野に出て仕事を始めていた。メロスの十六の妹も、

今日は兄の代わりに羊群の番をしていた。よろめいて歩いてくる兄の、疲弊困憊の姿を見

つけて驚いた。そうして、うるさく兄に質問を浴びせた。

「なんでもない。」メロスは無理に笑おうと努めた。「町に用事を残してきた。またすぐ町

に行かなければならぬ。明日、おまえの結婚式を挙げる。早いほうがよろう。」

妹は顔を赤らめた。

C-2

「うれしうか。きれいな衣装を買ってきた。さあ、これから行って、村の人たちに知らせ

てこい。結婚式は明日だ。」

メロスは、また、よろよろと歩きだし、家へ帰って神々の祭壇を飾り、祝宴の席を調え、

間もなく床に倒れ伏し、呼吸もせぬくらい深い眠りに落ちてしまった。

目が覚めたのは夜だった。メロスは起きてすぐ、花婿の家を訪れた。そうして、少し事

情があるから、結婚式を明日にしてくれ、と頼んだ。婿の牧人は驚き、それはいけない、

こちらにはまだなんの支度もできていない、ぶどうの季節まで待つてくれ、と答えた。メ

ロスは、待つことはできぬ、どうか明日にしてくれとええ、とさらに押して頼んだ。婿の

牧人も頑強であった。なかなか承諾してくれない。夜明けまで議論を続

けて、やつと、どうにか顔をなだめ、すかし、説き伏せた。結婚式は、

真昼に行われた。新郎新婦の、神々への宣誓が済んだ頃、黒雲が空を覆

い、ばつりばつり雨が降りだし、やがて車輪を流すような大雨となった。

祝宴に列席していた村人たちは、なにか不吉なものを感じたが、それで

も、めいめい気持ちを引き立て、狭い家の中で、むんむん蒸し暑いのも

こらえ、陽気に歌を歌い、手を打った。メロスも満面に喜色をたたえ、

しばらくは、王とのあの約束をさへ忘れていた。祝宴は、夜に入ってい

よいよ乱れ華やかになり、人々は、外の豪雨を全く気にしなくなった。

メロスは、一生このまゝここにいたい、と思った。このよい人たちと生

涯暮らしていきたいと願ったが、今は、自分の体で、自分のものではな

い。ままたならぬことである。メロスは、我が身にむち打ち、ついに出発



1 難題 はりつけの男

2 じだんだんを踏む 目

3 睡 一睡

4 到 到着

5 車輪を流す 車の輪（心輪）の  
ような周囲のたい雨が流し流す、  
大雨の様子を表す。

6 難題

7 難題 難題

8 難題 難題

9 難題 難題

10 難題 難題

11 難題 難題

12 難題 難題

13 難題 難題

14 難題 難題

15 難題 難題

16 難題 難題

17 難題 難題

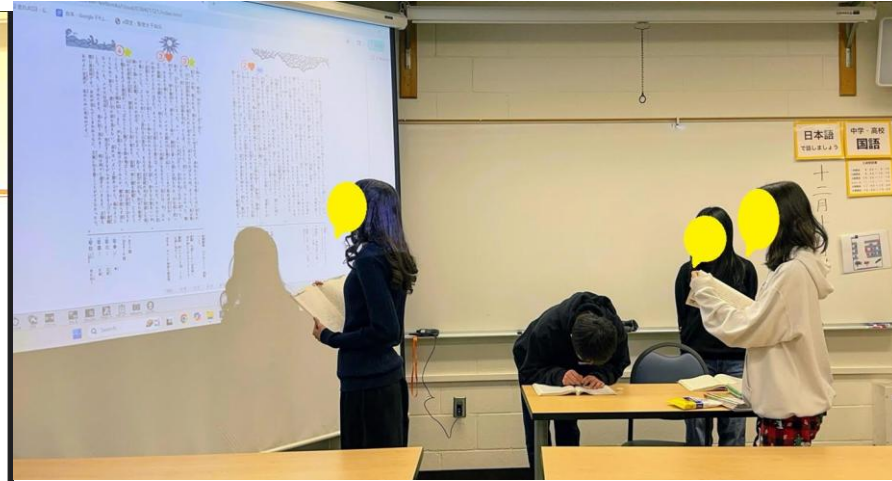
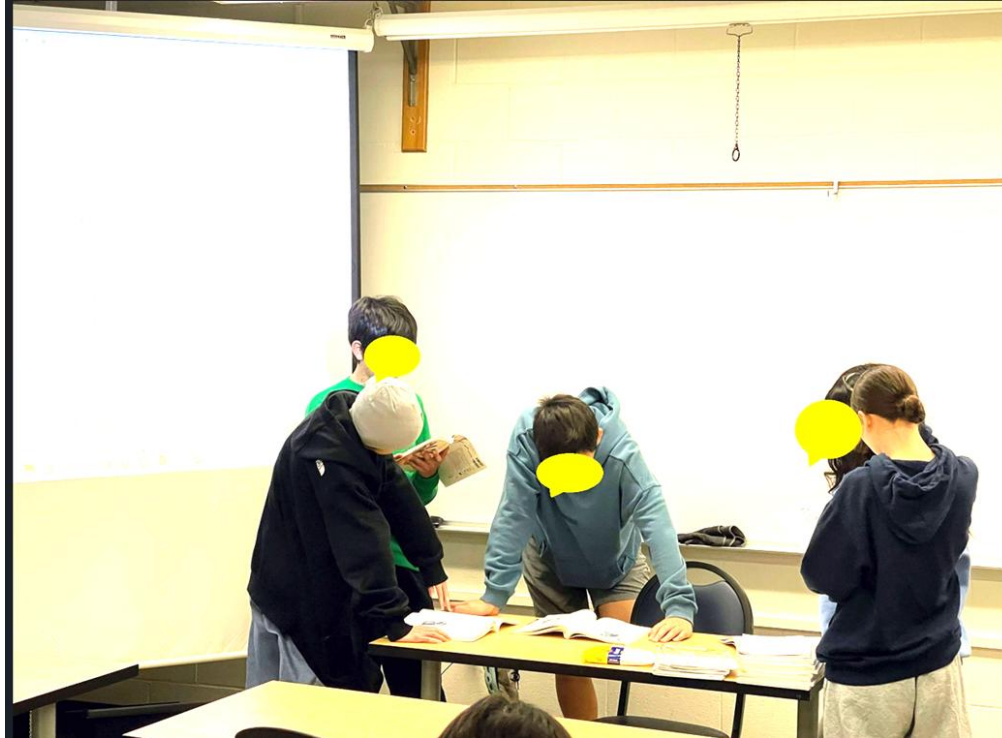
18 難題 難題

19 難題 難題

## ● サクラメント校の練習風景

文学を「理解」から「体感」へ

- 群読は；感情・間（ま）・リズム・重なりを通して、文章の意味が身体化される  
特に「メロスの焦燥」「王の孤独」が説明不要になる



- 聴く力が”本気”で鍛えられる
- 他校の生徒の台詞を聞き逃すと全体が崩れる構造
- 「聞いているふり」では成立しない
- ⇒実用的な聴解力・集中力が育つ



# ブルーミントン校の授業の様子

## 文章の感情理解が音声表現として可視化

## ブルーミントン校1名の生徒が「一人じゃない」学びの共同体を実感

## 感情高ぶって早めに読むところに 落ち着いてゆっくり読むところに つけよう

メロスは激怒した。必ず、かの邪智賢達を王を誅かなければならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮して来た。けれども邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。きょう未明メロスは村を出発し、野を越え山越え、十里はなれた此のシラクスの市にやって来た。メロスには父も、母も無い。女房も無い。十六の、内気な妹と二人暮らし。この妹は、村の成る律気な一牧人を、近々、花婿として迎える事になっていた。結婚式も間近なのである。メロスは、それゆゑ、花嫁の衣裳やら祝賀の御馳走やらを買いに、はるばる市にやって来たのだ。先ず、その品々を買い集め、それから都の大路をぶらぶら歩いた。メロスには竹馬の友があった。セリマンティウスである。今は此のシラクスの市で、石工をしている。その友を、これから訪ねてみるつもりなのだ。久しく逢わなかったのだから、訪ねて行くのが楽しみである。歩いているうちにメロスは、まちの様子を怪しく思った。ひっそりしている。もう既に日も落ちて、まちの暗いのは当りまえだが、けれども、なんだか、夜のせいばかりでは無く、市全体が、やけに寂しい。のんきなメロスも、だんだん不安になって来た。路で逢った若い衆をつかまえて、何かあったのか、二年まえに此の市に来たときは、夜でも街が賑をうたって、まちは賑やかであった筈だが、と質問した。若い衆は、首を振って答えなかった。しばらく歩いて老舗に逢い、こんどはもっと、固勢を強くして質問した。老舗は答えなかった。メロスは両手で老舗のからだをゆずぶって質問を重ねた。老舗は、あたりをはばかる低声で、わずかに答えた。

「王様は、人を殺します。」

「なぜ殺すのだ。」

「悪心を抱いている、というのですが、誰もそんな、悪心を持っては居りませぬ。」

「たくさんの人を殺したのか。」

「はい、はじめは王様の妹婿さまを、それから、御自身のお世嗣を、それから、妹さまを、それから、妹さまの御子さまを、それから、皇后さまを、それから、賈臣のアレキス様を。」

「おどろいた。国王は乱心か。」

「いいえ、乱心ではございませぬ。人を、信ずる事が出来ぬ、というのです。このごろは、臣下の心をも、お疑いになり、少しく派手な暮らしをしている者には、人質とりずつ差し出すことを命じて居ります。御命令を拒めば十字架にかけられて、殺されます。きょうは、六人殺されました。」

聞いて、メロスは激怒した。「呆れた王だ。生かして置けぬ。」

## 演出効果があると思う文や言葉に印をつけよう

メロスは激怒した。必ず、かの邪智賢達を王を誅かなければならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮して来た。けれども邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。きょう未明メロスは村を出発し、野を越え山越え、十里はなれた此のシラクスの市にやって来た。メロスには父も、母も無い。女房も無い。十六の、内気な妹と二人暮らし。この妹は、村の成る律気な一牧人を、近々、花婿として迎える事になっていた。結婚式も間近なのである。メロスは、それゆゑ、花嫁の衣裳やら祝賀の御馳走やらを買いに、はるばる市にやって来たのだ。先ず、その品々を買い集め、それから都の大路をぶらぶら歩いた。メロスには竹馬の友があった。セリマンティウスである。今は此のシラクスの市で、石工をしている。その友を、これから訪ねてみるつもりなのだ。久しく逢わなかったのだから、訪ねて行くのが楽しみである。歩いているうちにメロスは、まちの様子を怪しく思った。ひっそりしている。もう既に日も落ちて、まちの暗いのは当りまえだが、けれども、なんだか、夜のせいばかりでは無く、市全体が、やけに寂しい。のんきなメロスも、だんだん不安になって来た。路で逢った若い衆をつかまえて、何かあったのか、二年まえに此の市に来たときは、夜でも街が賑をうたって、まちは賑やかであった筈だが、と質問した。若い衆は、首を振って答えなかった。しばらく歩いて老舗に逢い、こんどはもっと、固勢を強くして質問した。老舗は答えなかった。メロスは両手で老舗のからだをゆずぶって質問を重ねた。老舗は、あたりをはばかる低声で、わずかに答えた。

「王様は、人を殺します。」

「なぜ殺すのだ。」

「悪心を抱いている、というのですが、誰もそんな、悪心を持っては居りませぬ。」

「たくさんの人を殺したのか。」

「はい、はじめは王様の妹婿さまを、それから、御自身のお世嗣を、それから、妹さまを、それから、妹さまの御子さまを、それから、皇后さまを、それから、賈臣のアレキス様を。」

「おどろいた。国王は乱心か。」

「いいえ、乱心ではございませぬ。人を、信ずる事が出来ぬ、というのです。このごろは、臣下の心をも、お疑いになり、少しく派手な暮らしをしている者には、人質とりずつ差し出すことを命じて居ります。御命令を拒めば十字架にかけられて、殺されます。きょうは、六人殺されました。」

聞いて、メロスは激怒した。「呆れた王だ。生かして置けぬ。」

## ● シカゴ校の練習風景



今だからこそ出来る学習デザイン  
走れメロスの定番教材を州・人数・学力差を超えて”群読劇 x  
オンライン x ICTで再構築  
自分の声で作品を作る経験・自分の声が州を越えて届く  
一人欠けると成立しない⇒自己有用感・責任感  
聴く力が”本気”で鍛えられる

## OPENING の言葉(シカゴ校)

みなさん、本日はご参加ありがとうございます。私たちは今日、インディアナ、カリフォルニア、そしてここシカゴ、離れた場所にしながら、同じ物語を声でつなぎます。太宰治の『走れメロス』は、人を信じることの難しさと強さを描いた作品です。それぞれの声が合わさることで、この物語がどんな響きをもつのか、どうぞ最後までお聴きください。



CANVA

背景制作＝情報活用能力



場面理解⇒視覚化⇒デザイン  
色・構図・余白・文字量を考える  
⇒国語×美術×情報の横断学習







# bridging remarks

## 繋ぎの言葉

(ブルーミントン校)

ここから後半が始まります。前半では、メロスが何を信じ、何に迷ったのかを見てきました。

私たちブルーミントン校は、三校のちょうど真ん中に立つ学校として、前半から後半へ物語をつなぎます。

もう一度、メロスと一緒に走り出してみてください。





















# ENDINGの言葉（サクラメント校）

ついに最後までたどり着きました！ メロスが走った道のりは、決して一人のものではありませんでした。今日の群読もまた、一人では完成しない物語でした。離れた場所から声を重ねたこの時間、みなさんの心に何が残ったでしょうか。

この群読劇は、たくさんの人の協力できあがりしました。うまくいったところも、緊張したところも含めて、私たちにとって大切な経験になりました。『走れメロス』が伝える「信じる気持ち」を、今日の時間と一緒に持ち帰れたらと思います。

物語は読み終わっても、今日生まれた声のつながりは、ここで終わりません。同じ日本語を学び、同じ物語を共有した仲間として、またどこかで出会える日を願って。

以上で、ONLINE群読劇『走れメロス』を終わります。  
ありがとうございました。

## 【第9問】

### Slide 17 | 問題

#### 問9

メロスとセリヌンティウスの行動によって、  
王が失った考えはどれか。

- A 🖐️ 王としての威厳
- B 🖐️ 処罰の必要性
- C 🖐️ 人は信じられないという考え



## 【第10問】

### Slide 19 | 問題

#### 問10

「走れメロス」における「走る」の意味として最も適切なものはどれか。

A 🖐️ 体力と根性の象徴

B 🙌 信義を守ろうとする生き方の象徴

C 🖐️ 速さと勝負の象徴

